
イノセント・ショット

白牛乳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イノセント・シヨット

【Nコード】

N1638BA

【作者名】

白牛乳

【あらすじ】

「あなたは1000億円を手にする権利を得ました」女大生の道端光の元に突然届いた迷惑メール。それは全国から30人を抽選し、あるゲームを行う、というものだった。光は同じくゲームに招待された友人とともに、説明会場へ向った。

01 招待状

「あなたは夢の1000億円ゲームの参加者に選ばれました。おめでとございます」

みちほたじかる
道端光は困惑した。

「携帯買い換えたばかりなのに、いきなり迷惑メール？」

しかしまあ、いつものこと。どこかしらのサイトからアドレスが漏れてしまったのだろうか。

買い換えてすぐにアドレスを変えるのも面倒なので、渋々削除しようとするも、

消えない。

消えないのだ。メールが。

始めは不思議に思うだけだったのだが、

徐々に妙な恐怖を抱くようになった。

何度試しても削除できない、削除できない。

しかもよくよく考えてみると、迷惑メールであるはずのメールの本文に、サイトのURLが記載されていないのも不自然である。

知り合いのイタズラかとも思ったが、なんととってもこのメール、削除できないのだ。

他のメールは普通に削除できる分、携帯に何かしら異常があるというわけではないらしく、このメール自体に何か細工がしてあるという理由以外考えづらい。

しかしそんなことができるのかなんて、当然彼女には分からないのだが。

少なくとも彼女の友人にハッカーやプログラマーはいなかった。

サポートセンターとか、迷惑メール相談所とか、
そういうところに連絡したほうがいいのかな、なんて、おたおた
してる内に

続きのメールが届いた。

「あなたは1000億円を手にする権利を得ました。
ゲスト様のご健闘、ご生存をお祈りしています。

又、このメールへの返信はできません。

又、ゲスト様は1000億円を手にする権利を得ましたが、

同時にゲームに参加する義務を与えられました。」

やはりURLは記載されていなかった。

あまりにも奇妙なメールに、かすかな恐怖心が湧き上がる。

それをかき消すように、彼女は携帯を閉じた。

同時に、彼女は、このメールが届く直前の自分の目的を思い出す。
今晚、遊びに来る友達をもてなす、おいしいお菓子を買わなくち
や、

慌てて扉を開けて、外へ出ると、真横の部屋に住んでいる隣人と
はちあわせた。

「あ、ども」

「い、こんばんは」

彼は、光と同じ大学に通う学生だが、彼女は名前も、学部も知ら

ない。

しかしお互い徒歩で通学しているため、学校へ行く際に部屋の前ではちあわせると、自然と、一緒に並んで歩くこともあった。

彼は寡黙で、二人きりで沈黙していても、何も話そうとしない。だから、話したことがない。

光は人見知りなので、人と無駄に干渉しようとしなない彼の性格には助かっていた。そして、好感も持てた。

とびきりイケメンだ、とはいえないが、それなりに女子からちやほやされそうな雰囲気をしている。

しかし、彼が女を部屋に連れ入ったことはない。

草食系男子、なのだろうか。それとも全く色事に興味がななのか。神秘的なオーラを持った彼に、いつしか恋心に似たような感情を抱いていた光は、

最近、こういう、ふとしたはちあわせに、喜びを感じるようになっていた。

「……」

今日も何も言えぬ間に、彼は部屋へ帰った。

しかし彼女はこの距離感に満足していた。お互いの距離は近づき気配も無いが、彼女は彼の顔を見るだけで心が満たされていた。

「おーっす光、きたよ。……なに、さっきの男？ 彼氏？」

聞きなれた声に振り向くと、親友が手を振りながら近づいてきていた。

たかとりわかかな
鷹取若菜。

服装は派手。肌は健康的な褐色をしている。髪はブロンドだが、加工のしすぎで痛んでいる様子だ。

地黒な肌質のせいもあって、一昔前のギャルといった感じの奇抜な風貌だが、課題やバイト、言われたことはキチんとこなす、優等生だ。

この辺りではけっこう可愛いはずなのに、彼氏は何故かいたことがない。

今日は彼女が泊まりにくる予定だった。

「ち、ちがうよ！ ただのこ近所さん……」

光は咄嗟に否定の言葉を吐き出しながら、

彼女にまだ夕飯を用意していないことを話した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1638ba/>

イノセント・ショット

2012年1月4日03時47分発行